

町民アンケートより 要望実現に前進

日本共産党が行った町政に対するアンケートには、身近な危険箇所や修理してほしい箇所などの要望もたくさんありました。すぐに改善すべき事は、町や県に連絡しました。今後も皆さんの声を生かして取り組んでいきたいと考えています。また途中ですが、町民の皆さんの要望が実現に向けて前進したものもあります。皆さんの声の中から、豊浜と天井からの要望を紹介いたします。

豊浜地区の避難路、道路の安心・安全にかかわる要望書提出

「初神奥のカーブ道路の陥没を直して」 住民の声届く

県「台風前までに何とかしたい」

内田保議員は、アンケートに回答された豊浜地区の方と7月23日に豊浜地区の第一次避難所や道路整備等について現地確認をしました。早急な道路工事の必要性と初神の危険な箇所も見つかりました。また、豊浜地区の第一次避難箇所等における町としての適正な整備が必要であることも分かりました。7月27日内田議員は建設課と防災安全課に、写真と現地の地図を渡し、県道ですが、町としても現地確認し、県の担当課に対して、要望するよう必要の要望書を出しました。

内田保議員は、7月28日愛知県知多建設事務所にも、初神の現地確認をし、直ちに道路工事を開始するよう再度要請しました。すでに3人の町民の方からも同じ電話があったとのことでした。

8月3日、県知多建設事務所の南知多町の担当者から内田議員は電話で問合せました。「現在工事設計中で、台風前には、工事をしたい」との回答でした。住民の安心・安全が第一です。



海水が染み込み道路が下がってきている！

「大井岸壁のひび割れをすぐ直して」

「大井のレジャーボート置き場の岸壁が壊れかけているので直してほしい。去年も役場はやると言ってやらなかった。今年も直すと言っているけど、必ずやってほしい。一度見に来てほしい」とTさんよりアンケートの回答がありました。

早速7月31日、Tさんを訪問し、現地を案内してもらいました。陸地側からだけではわかりにくいので、船に乗せていただき岸壁の様子を点検しました。「あのひび割れから海水が陸地側に流れ込み道路がへこんでいるのです。道路は後にするにしても、まず岸壁をコンクリートで固める等して海水が入らないような工事をしてほしい」と説明されました。役場に言ったが、心が



配なのでアンケートに記入した道路は確かに少し海水が入り込んだためにへこんでおり、伊勢湾台風以来の石積みの岸壁にはひびが入っており、このままでは海水が染み込み続け、危険な状況なのが分かりました。すぐに、Tさんからの町民アンケート用紙をもって、現場の写真を示しながら、町建設課に要請しました。建設課は「すでにTさんから工事の要請もあり、Tさんへは今年直すと回答した」とのことでした。しかし、一方で「先の大雨で予算の関係が苦しくなっている。検討したい」という姿勢を示したので、内田議員は、「今年やるとTさんに回答した以上、補正予算をつけてもやるべきである」と強く要請しました。その後、町が直ちに設計に入ることを確認しました。町民に誠実な行政を期待しています。

（川柳コーナー）

被爆75年新型コロナ祈る夏
広島・長崎への原爆投下から75年、核兵器禁止条約の発効まであと6カ国となったが、日本の批准はまだ。新型コロナの終息と平和を祈りたい。



本誌「豊ついで」が

学級の原簿生徒数は増え先生の数は減らされて学費条件は悪くなります

8月19日に、第4回学校適正化懇談会が開かれました。令和4年までに大井小・師崎小を師崎中に統合し、中学校は、師崎中、豊浜中、内海中の3中学校を豊浜中か内海中のどちらかに40人学級を前提に統合し、島は協議を続けていくという計画が出されました。この計画では、師崎小・大井小の学級対応分の先生数は、20名から10名に減らされます。また、中学校3校の先生も、現在16クラスが12クラスになり、34名いる学級対応分の先生が20人に減らされます。1学級の児童生徒数が多くなり、38人、39人の学級もでき、先生の数が減らされ、子どもたちの学びの条件が今より悪くなります。先生の給料は国と県で支払われるので、町の予算には関係ありません。あまりにも唐突な案であり、住民への説明も不十分です。また、「コロナ禍では20人学級こそ求められるのでは無いでしょうか。」